

氏名 かこい 梶 ちか子 講師



主な研究テーマ

- 保健体育の学習指導要領に基づいた授業づくり
- 学校体育における表現・ダンスの指導方法と評価

平成30年度の研究内容とその成果

平成29年に中学校学習指導要領が、平成30年に高等学校学習指導要領が告示されました。今回の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」「共生社会の実現」等のキーワードが注目され、保健体育の授業においても、知識や技能の習得のみではなく、学びに向かう力、人間性等で示された指導内容を踏まえた上で、思考力、判断力、表現力等の育成に向けた指導について、さらなる充実や発展が期待されています。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現・継続し、スポーツとの多様な関わり方（する、見る、支える、知る）を選択できる資質能力の育成についても明記され、スポーツ文化に親しむ国民の育成に向けての方向性が示されました。

これらの資質能力が社会で生かされるためには、まずは、生徒自身が保健体育の価値を理解し、「保健体育」が意義のある教科であると感じる授業づくりが重要となります。そのためには、指導内容の確実な定着を目指して、年間カリキュラム作成の際

に領域の取り上げ方や時間配当等を検討すること、また、単元計画を見通して、指導内容や評価の機会を検討すること、さらに、より効果的な指導方法や教材等を研究することが必要です。

大学の教員養成課程では、教員として必要な資質能力を確実に身に付けさせることが必要であるとされ、学校現場で即戦力となる人材の育成が求められています。そこで、より効率的に保健体育科教員として必要な実践的指導力を育成できるよう、保健体育科教育法及びダンス授業において、様々な取組や教材開発を行いました。

(1) 保健体育科教育法Ⅲにおける単元計画作成・模擬授業・省察の実施

保健体育科教育法Ⅲの授業では、体づくり運動、球技（ゴール型、ネット型）、体育理論、保健の各領域について、学生たちがグループで単元計画を作成し、その計画に基づいて指導案を考え、模擬授業（学生が教師役となり、生徒役の学生を指導する）を行いました。これまで様々な講義や実技等の授業を通して得た知識や技能を、中学



写真1 単元計画作成



写真2 模擬授業

生や高校生を対象とした50分の「授業」として成立させるためには、基本的な教授技術に加え、学習指導要領に示された「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容をどのように授業に組み込むかを考え、指導方法や教材づくり等、様々な準備・工夫が必要です。そこで、単元計画を作成する際に、学習指導要領の内容を学習過程に反映できるよう、簡易単元構造図フォーマットを作成し、学生がパズルのような形式で単元計画作成を学べるよう、教材を開発・工夫しました。その結果、単元での指導内容が明確となり、指導案作成、模擬授業、そして省察という流れを繰り返し行うことで、学生一人一人の教授技術がレベルアップし、より実践的な指導力を身に付けることができました。

(2) ダンス実技授業における技能評価力向上を目指した実践

学校体育における「表現運動系・ダンス」

領域では、「表現・創作ダンス（以下、表現系ダンス）」「フォークダンス」「リズムダンス・現代的なリズムのダンス（以下、リズム系ダンス）」を学びます。中でも「表現系ダンス」と「リズム系ダンス」は、決められた振付のない自由なダンスが特徴です。しかし、「自由」であるが故に、どのような動きが「良い」動きなのかが明確でなく、より良い動きを指導する際にも必要となる評価観点については課題が残っていました。そこで、複数のダンス専門家や体育の教員を対象にインタビュー調査を行い、表現系ダンスとリズム系ダンスの技能評価観点を図にまとめました。

ダンス実技の授業では、これらの技能評価観点構造図を用いて、表現系ダンスやリズム系ダンスの動きを観察しながらの技能評価を実施しました。授業前と比較して授業後には、より多くの観点から動きを観察できるようになり、技能評価力の向上が見られました。

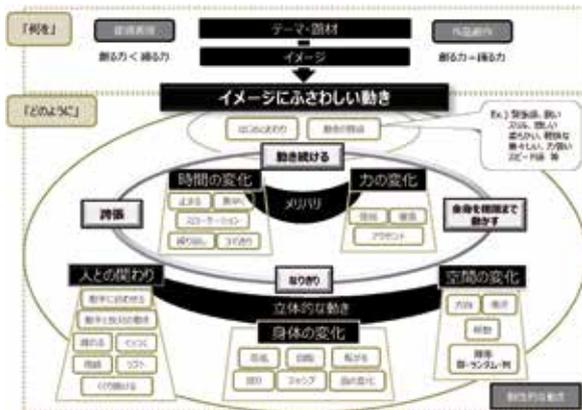


図1 表現系ダンスの技能評価観点構造図

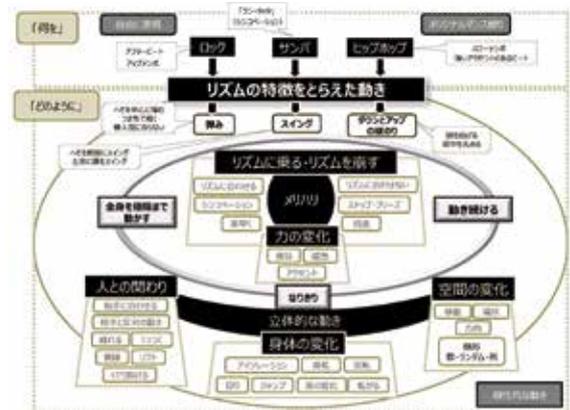


図2 リズム系ダンスの技能評価観点構造図

これからの研究の展望

今後は、教員志望学生のより高度な実践的指導力の育成を目指し、保健体育科教育法をはじめとする教職科目の授業方法を検討し、効果的・効率的かつ学びが深まる教材の開発に努めます。また、昨年度作成した表現系ダンスとリズム系ダンスの技能評価観点構造図については、学校体育のダンス授業の中で使用できるよう改良し、その効果について検証を進めていきます。